

ヒトは なぜ 人間になれたのか

「ヒューマン なぜ人間になれたのか」をテーマに、「第1集 旅はアフリカからはじまった」、「第2集 グレートジャーニーの果てに」、「第3集 大地に種をまいたとき」、「第4集 そしてお金が生まれた」と、4回にわたり放送されたので、ご覧になった方も多いかと思う。

アフリカに誕生した「ヒト」が地球上の各大陸に冒険を続けながら行き渡る人類誕生の歴史を振り返りながら、どう「人間」になれたのかの疑問に答えていく番組であった。

その答えを導くために、考古学、人類学、脳科学、生命科学、歴史学、生物学、歴史学、心理学、等々の最新科学の様々な角度からの知見からの検証を含めたものだけに見応えがあった。

第一集ではヒトは協力し合いながら生きてきたからこそ今の「人間」に繋がっている根源があると説き、第二集ではヒトが食料としての動物を獲るがために槍（飛び道具）を手に入れたことが、今の人間の武器使用の功罪に繋がることを説く。

第三集では定住して穀物を手に入れ守ることから集団同士の争いと、穀物の分け合いが争いを収める手段でもあったと説く。

第四集では、物々交換の過程で貨幣が誕生してきた過程を説き、貨幣誕生が人間の格差を産んできたと説きながらも、相手を信頼する背景があるからこそ、貨幣による物々交換が可能になったと説く。

第一集から第四集を通して、ヒトは協力し合い相手を思い遣って分かち合い、相手を信頼するからこそ、人間になりえたと言っているように思えた。

誰もが自明の理と認める「ヒトは決して一人では人間に成り得ない」ということが、太古から現代でも同じと様々な最新科学から検証・説かれると、当 HP でもしばしば簡単・明瞭に発信している「生きていく→人間関係→コミュニケーション」や「生きる喜びは人と係わり合う喜び」という自論に、更に自信と勇気を得た気がした。

昨年の大震災と原発事故で、国家が、社会が、また個人としても物質的豊かさを目的として追い求めることがどんなに空しいかを世界に発信したこの時期だからこそ、今一度、ヒトが人間になりえた根源に立ち帰って思考することが、次の人類文明の価値指標の再構築へのヒントとなるのではないだろうか。